

県政レポート

ほんまに
やらなあかん!
VOL.21

ホームページ

Go!
Go!
白井
ゆきのり

4/26 (sat) 県政報告会

"8つの取り組み"について、
進捗状況を報告させていただきました。県政報告会には、多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。
今後も皆様からいただいたご意見・ご要望を大切に、全力で取り組んでまいります。

取り組み1 草津養護学校の分離新設

知肢併置の特別支援学校の新設が決まりました。設置場所は守山市金森町の湖南幹線沿いの約3万㎡の敷地です。

令和7年度中に造成工事の設計に着手し、令和9年度頃から建設工事に着手できるのではないかと思います。

取り組み2 医療的ケア児の支援と小児保健医療センターの新設

滋賀県立小児保健医療センターが県立総合病院に統合され、今後センターの移転新築が予定されています。そこで医療的ケア児の親の会「めでいっこ親の会」から聞き取りを行い、滋賀県病院事業庁など関係機関との意見交換を実施しました。引き続き、より良いセンターになるように取り組みます。

取り組み3 先端技術研究と企業誘致の取り組み

滋賀県は立命館大学半導体応用研究センターと連携し、先端技術研究に取り組んでいます。滋賀県工業技術総合センターと立命館大学のセンターを拠点とし、国の補助を活用して施設整備を進めていきます。

今年度は特別委員会ですといった取り組みの根拠となる条例を作ります。

取り組み4 「全国都市緑化フェア」開催

このフェアは来場者100万人、経済効果100億円が見込まれるビッグイベントです。令和7年2月に草津市長が開催誘致の意向を表明し、本年度から関係機関との打合せが始まりました。秋篠宮家をお招きするイベントですので、準備には時間と労力が必要なことから、2030年頃の開催を目指すのが現実的と考えられます。

取り組み5 科学技術体験『かがくのこ』の導入

子ども達の科学への興味を育み、理系人材の育成につなげるため、義務教育段階での科学技術体験の導入を提案しました。

そして福永教育長の答弁より『かがくのこ』と名付けられ、県内で実施されていくこととなります。

取り組み6 第3大橋

第3大橋は、びわ湖大橋・近江大橋に次ぐ、琵琶湖の東西をつなぐ交通網の整備構想です。

令和7年2月の定例会議において、三日月知事が「設置場所には南湖で検討、令和7年度から事業形態や工法の研究、エリアを広げた経済効果についても検証する」と答弁されました。今後は道路整備課や滋賀県道路公社を中心に具体的な検討を進めてまいります。

取り組み7 平野南笠線

令和5年度から令和14年度を計画期間とする「滋賀県道路整備アクションプログラム2023」に「平野南笠線」が追加されました。国スポ開催までに、山手幹線からダイハツアリーナまでの4車線化が完成予定です。

その後、名神高速道路を越えていく大規模な工事です。さらには平野南笠線の新交通の専用レーン設置についても検討してまいります。

取り組み8 旧草津川の区間1の整備

旧草津川跡地の第1区間に芝生を張り、グラウンドゴルフのコースとしてご利用いただける環境づくりに取り組みました。併せて、フェンスや階段などの整備も進めており、地域のシニアの皆さまが安心して安全に楽しめるよう、できるだけ早期に整えてまいります。

ご挨拶



残暑の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今年6月早々に梅雨が明け、例年にない長い夏となっております。どうか熱中症対策を万全に、お身体ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

さて、皆様の温かいご支援のおかげをもちまして、県議会議員2期目の当選から早くも2年が経過いたしました。皆様の一票一票の重みを胸に、地域の声に真摯に耳を傾け、寄せられたご要望の実現に引き続き全力で取り組んでまいります。

今年度は地方創生・公共交通対策特別委員会委員長を拝命し、総務・企画・公室常任委員および政務調査会委員にも選任されました。これまでに培ってきた経験を活かし、より一層積極的に活動してまいります。今後とも変わらぬご支援とご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

まだしばらくは暑さが続くとのこと、どうか体調管理には十分ご注意くださいませ。

令和7年8月吉日

滋賀県議会議員

白井幸則



「8つの取り組み」の詳細はInstagramでご覧いただけます。ぜひフォローをお願いします!



地方創生・公共交通対策特別委員会 県内行政調査

7月23日、彦根市にある株式会社 SCREEN ホールディングス 彦根事業所を訪問し、調査を行いました。

株式会社 SCREEN ホールディングス 彦根事業所は、半導体の洗浄装置について世界トップシェアを誇る同社の主力工場で、半導体の需要拡大に応じた設備投資を続け、生産能力を高めておられます。

本県経済の発展には、企業の稼ぐ力を高め、特に成長が見込まれる分野への設備投資や次世代技術の開発に投資を行っていく必要があると考えます。今後、委員会で議論していく上で、非常に有意義な視察となりました。

本委員会では、今後とも多面的な調査研究を実施し、効果的な政策提言を行えるよう、努めてまいりますので、県民の皆様のご理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2025大阪・関西万博 滋賀県ディ

7月24日の万博の滋賀県ディ「びわ湖サマールーズ」に合わせて、自民党の会派研修で「大阪関西万博」へ行ってきました。

EXPO ホール「シャインハット」で開催された滋賀県ディのイベントは、学習船うみのこに乗船して、大津港を出港するところからスタートです。延暦寺の“不滅の法灯”と天台声明、草津市下笠町の“サンヤリ踊り”などが披露されました。

大変多くの方が、来場くださいました。私たちも、もっと滋賀県の良さをアピールしていきます。



第42回 全国緑化フェア視察

4月23日から岐阜県で開催された「第42回全国緑化フェア(ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025)」は、来場者200万人を記録し、6月15日に閉幕しました。

期間中、草津市・栗東市・野洲市の県議会議員で視察を行い、「自然と私たちの暮らし(グリーン・ライフ)」をテーマにした多彩な取組を体感しました。

令和4年より関係団体や市町との調整を重ねており、いよいよ滋賀県開催に向けた本格的な準備の段階に入っています。





代表質問 6月定例会議

いよいよ国スポ9/28～障スポ10/25～大所高所の質問に徹しました。

質問者 村上元庸 議員

1. 滋賀県防災対策の推進に関する条例に基づく取組について
2. 大学連携の現状と今後の取組方針について
3. 今後の行財政運営について
4. 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の成功に向けて
5. 強靱かつ持続可能な下水道システムの構築について
6. 平和への取組について
7. 保育人材の確保について
8. 中小企業の「稼ぐ力」の強化について
9. 観光誘客・振興について
10. 水産業の直面する課題について
11. 水田農業の推進について
12. 道路整備事業の推進について
13. これからの滋賀の教育行政について
14. トリュウ対策について

Q 大会のレガシー継承・将来への活用にあたり、どのようなことを思慮しているのか伺う。

A 大会で活躍いただく選手や指導者が、滋賀の地に残り、子どもたちを始め、県民にスポーツの魅力や伝え、様々な形で県民のスポーツ活動の充実に貢献いただくことを期待いたします。

また、大会を支えていただくボランティアの皆さんには、引き続き大規模大会等、様々な機会でご活躍いただきたいと思います。

本大会に向けて整備を進めてきた施設におきましては、各種競技の実施にとどまらず、大規模大会の誘致やプロスポーツでの活用などを積極的に進め、多くの人がスポーツを「する・みる・支える」場としての賑わいを創出していきたいと存じます。

両大会を通じて得られる有形無形の様々なレガシーは、これからの滋賀にとって貴重な財産でございます。将来に向けたレガシー創出のための取組を全庁あげて推進し、健康しがの実現に向けて、全力を尽くしてまいります。

「わたSHIGA 輝く国スポ・障スポ」の成功に向けて

Q 現在把握している大会に向けた課題への対応と準備状況、更なる機運醸成に向けた取組について伺う。

A 開催に向けましては、国スポリハーサル大会などを踏まえ、大会運営やおもてなしの準備を着実に進めており、警備や熱中症予防など、本番を想定した対策に取り組んでいるところであります。

加えまして、障スポリハーサル大会では、悪天候下での開催判断や、運営スタッフやボランティアの活動等について課題や改善点を再認識したところであり、その対応を指示しているところでございます。

大阪・関西万博の期間との重複から心配しておりました宿泊施設やバスの確保につきましても、県内のホテル・旅館などの宿泊施設やバス会社等の御協力により、おかげさまで概ねの目途が立ってまいりました。

更なる機運醸成に向け、JRの駅など街を大会装飾で彩るシティドレッシングを展開いたしますとともに、大会100日前イベントとして平和堂H A T Oスタジアム周辺の一斉清掃を実施いたしますほか、市町におきましては炬火(きょか)イベントや大会期間中の情報発信なども企画されております。県民や企業、市町の皆様にも御協力いただきながら、オール滋賀で大会を盛り上げてまいりたいと存じます。捉えているところであります。全国大会や日本代表等の合宿の開催に向けて、「攻め」の誘致活動を展開してまいりたいと思っております。

Q 国スポ・障スポの将来を展望し、どのような大会を目指しているのか伺う。

A 昨年の佐賀大会では、自由で楽しさあふれる開・閉会式など、新しい大会として様々なチャレンジが行われたところでございます。これらの取組を滋賀らしく進化させることに加え、環境配慮の実践など、滋賀ならではの取組を通じて大会に関わるすべての人が光り輝く大会となることを目指しております。

公共交通機関の積極的な活用やマイボトル持参など、大会を通じて環境を考える機会が根付き、また、ボランティアの皆さんの活躍が、スポーツを支える文化の醸成につながるものと確信しております。そして、これらの思いは、後々の大会にも受け継がれていくものと考えております。

県民の皆様と一緒に、滋賀ならではの魅力と感動をつくり出し、湖国で生まれた感動が、両大会に関わるすべての人の心に刻まれ、将来にわたって引き継がれるよう、残された期間で着実に準備を進めてまいりたいと存じます。

Q 両大会に挑む滋賀県選手団や帯同者へのサポート体制と目標達成に向けた決意を伺う。

A 本県選手団へのサポートは極めて重要であり、例年ない規模で臨むことになる今年度は、特に配慮が必要だと認識しております。

国スポに向けましては、日頃の練習から医学面でのサポートの充実を図りますとともに、本番では各競技に必要なコーチやトレーナーをすべて配置できるよう支援し、選手のコンディション維持やパフォーマンス向上につなげてまいります。

医師として村上先生にはいろいろとお世話になっておりまして、心から感謝申し上げます。

また、障スポの選手団は、大規模な大会への参加経験の浅い選手が多いことから、本番を想定した練習機会の充実を図りますとともに、大会当日の選手団の移動や身の回りの支援など、障害特性に応じたサポートを行うことで、選手の皆さんがリラックスして競技に臨めるよう配慮してまいります。

これら質の高いサポートを通じて、選手の皆さんが自信を持って本番を迎え、持てる力をすべて出し切ってくださいと、目標である国スポ総合優勝と、障スポ全種目での本県選手の活躍の実現を目指してまいります。

令和7年度友好団体政務調査会 友好団体のご要望を頂戴しました！

合計67団体からの要望を5月26日～6月6日のうち8日間に渡って承りました。頂いたご要望については実現に向けて誠意努力いたします。また県内全19市町からの要望を承る令和7年度都市別政調会を7月29日～8月8日の日程で実施いたします。県内すべてのみなさまの声が県政に反映されるよう頑張ります。